

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Contains details for Meri-Life Co., Ltd.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for K-net evaluation agency.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Blank area for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation items (56-62).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を入居者一人ひとりの生活に合せた支援は何か考えた上で実践につなげている。今回新しい職員が入ったことでもう一度見直ししながら改めて4つの理念を理解し取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域町内会や小学校、保育園との交流、絵手紙サークル、ボランティアサークルなど交流する機会を持ち地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な研修や講演会に参加して認知症ケアの啓発に努めている。市の介護支援ボランティアが来られ行事に参加するなど馴染みの関係にもなり理解が深まっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や入居者も出席して2か月に1回開いている。災害や防災への取り組みについても話し合いがもたれている。また、身体拘束適正化委員会を設置して委員間での意見交換を行って報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査や生活保護の方との面談など事前に連絡があり日程調整を行っている。来設の際には入居者の様子、状態の変化など具体的に情報を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月より身体拘束適正化委員会が設置されている。入居者主体のケアに取り組み、尊厳のある生活ができるように具体的な行為11項目を理解してケアに当たっている。施錠は交通量の問題もあって万が一に備え、この形にしているが希望がなくとも素振りがあれば都度対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の目標に掲げて言葉かけを意識したり、入居者の対応で日頃から話し合いを行いながら解決策を見つけ出すことで防止に努めている。虐待の前である言葉の使い方の時点で職員間で注意を行いエスカレートしないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットでは現在成年後見制度の利用はないが、研修会や勉強会を通して財産管理に対する理解を深めている。また、他ユニットでは活用しているので必要に応じ参考にしていける環境でもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には特にご家族や入居者も不安を感じる事が多く管理者は重要事項や契約書を丁寧に個別に説明している。またホーム内の見学も常時行っており、安心して頂けるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では毎回、無記名アンケートを実施して意見を出しやすい環境を作っている。今後の要望や希望など常にご意見をいただけるよう努めている。また玄関には意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や面談で管理者も参加して相談や質問など話し合いを行っている。話しやすい雰囲気作りに努めている。また合同会議では各ホームの意見も参考に必要によっては取り入れ全体に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境など人手不足はあるが、勤務の調整もできるだけ配慮して作成している。できる限り一人ひとりに合わせた勤務条件の整備に努めている。離職率は低くベテラン職員が現在も大半を占めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は目標を立てながらケアに取り組み、振り返りを行っている。また面談を行い来年度に向けた目標を設定して次につなげるように育てている。内部研修は定期的に参加して勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議である「助けあえーる」に参加して他職種の方との意見交換が定期的に行われている。また、認知症カフェに入居者と参加するなど相互交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態を把握しながら関わりを持ち、アセスメントすることで、その方にあった支援方法を見つけだし安心して生活ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時などご家族が困っていることや不安を聞き、受け止めながら初期の段階から信頼関係を築けるように努めている。ご家族に合わせた面談の時間調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前のサービス利用状況を見極めた上で適切な支援につなげている。ご本人の状態により何が必要なのか、家族の希望、要望等も考慮しながらサービスの提供ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年の職業柄で挨拶を得意とする方には行事などでご挨拶をしていただいたり、洋裁が得意な方は一緒に縫物をしていただくなど一人ひとりと日頃からお話を交えながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、ご家族からも相談を受けることが多い。病院受診の結果の連絡は定期的に行っている。また絆を持ち続けられるよう意図的にご家族が同行して受診される方もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の親戚やご家族に電話の依頼があった時には対応している。面会になかなか来られないご家族にはメールで近況報告したり、行事にお誘いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や特技を活かしながらユニット交流が行われている。将棋やカラオケ、合同食事会、外出行事など入居者同士関わりを持ちながら過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も来設やご連絡があった時にはご家族の立場に立ち相談ごとをお聞きしている。気軽に来ていただけるよう行事にお誘いしている。実際に里の家祭りに毎年来ているご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や仕草からご本人の思いを受け入れ希望や意向を把握している。困難な場合はご家族からも情報をもらうなど協力して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートで情報はある程度、把握しているが会話の中から昔話も聞かれることがあり、その都度暮らしに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりのペースで過ごしている。アセスメントを取りながら、できる力、わかる力を活かせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が3か月ごとの介護計画書の評価を行い課題や必要な支援について話し合いをしている。よりよく暮らせるためにご本人の希望やご家族の要望も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に添った記録を個別に行っている。日頃の入居者の様子など特変があれば話し合いがもたれ職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、送迎など個々のニーズに合わせて柔軟に対応している。介護タクシーや美容、理容室の手配も行っている。また毎週、入居者から希望があり、お買い物の対応もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店へ出かけお買い物を楽しんでいる方もいる。また隣の整骨院を利用している方もいて外出を楽しんでいる。地域町内会の協力をいただき安心につながっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり訪問診療、訪問看護、訪問歯科、皮膚科の往診があり体制が整っている。かかりつけ医(内科)は特変時は指示をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体心身状況などで気づいた点や質問があれば訪問看護師に伝え相談している。また定期検査の連絡や予約にも対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に入居者の情報を伝えている。緊急時は治療方法などをご家族と付き添いお話を聞くこともある。病院側、ホーム側も最善を尽くしご家族にも満足していただけるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する段階から終末期についての希望や要望を話し合うこととしている。今回の新アセスメント表にも取り入れている。看取りの必要性がある方には本人とご家族と連携を取り、支援できる体制に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生方法、AEDの操作方法、ノロウイルス対策などの講習を受けている。また事故発生時のマニュアルが作成され職員は緊急時に対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、自主的に避難訓練が行われている。地震、火災、また夜間や日中などあらゆる想定で行っている。冬場の対策としても備蓄品を取り揃えている。町内会の協力をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を読み取り言葉かけを工夫している。特にトイレ際にはさりげなく誘導を行いプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話から希望や思いが聞かれることがある。「～へ行きたい。」「～が食べたい」などご本人の気持ちを汲み取りながら日々支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事など役割を持つことで自分が必要とされることに生きがいを持っている方がいる。信頼関係を深めその人らしい暮らしができるよう本人のペースを守りながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入床時の洗面や着替え、入浴時の髭剃り、爪切り、また外出時の準備など身だしなみやお洒落の支援をしている。女性はお化粧を行う方が2名いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春から秋にかけては自家菜園を利用している。彩りや季節感がある食材を提供して食材テストにも取り組んでいる。食後の片付けは入居者と一緒にお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量はバイタル表に記入して把握している。血糖値が高めの方には菓子や食事量の調整をDrやご家族と一緒に相談しながら適切な支援ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは声を掛けることで常時行っている。本人自ら行う方もいるが、できない方には介入している。歯科往診があり希望者は定期的に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を行なう事でリハパンから布パンツに変更した方もいる。本人の状態に合わせた排泄支援を行っている。特に夜間は排泄パターンを把握して誘導やパット交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質の物を利用したり、ヨーグルトを提供するなど便秘予防のため取り組んでいるが、便秘薬服用している方にはDrと相談しながら一番有効性の高いものを探って調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずにご本人のタイミングに合わせて入浴対応している。ご本人の好きな曜日を決めている方もいる。時折、拒否が見られるような方には言葉かけを工夫しながら気持ちよく応じられるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠していただけるよう夜間の安否確認を行っている。また日中に静養される方もいて一人ひとりのペースで過ごして頂いている。夜間不眠の方にはDrと相談して眠剤で調整している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はバイタル表に保管して、いつも把握できるようになっている。一人ひとりのお薬を理解しており、服薬時は2名で読み合わせ誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしながらご本人の力を発揮できるよう菜園活動、家事(食器拭き、お掃除、)将棋、ゲーム、体操に参加して日々楽しめるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食事会やお買い物、お誕生会、散歩など季節に合わせた楽しみ事を提供している。また個人行事を取り入れご家族とご本人の希望を聞きながら一緒に外出する機会をつくり取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを所持している方はいる。毎週、チラシ等を見ながら選んで買うことに楽しみを持っている。その方にとってお金を使うことに対しての喜びを感じる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼がある時はすぐに対応を行っている。難聴の方は職員が取次ぎ、内容を分かりやすく説明している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置き、入居者はいつも仲間と談笑しながら過ごしている。壁には季節ごとのポスターや行事での写真が飾られている。居室それぞれに温湿度計を設置して部屋の状態を把握するよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分のペースで過ごせるよう職員は入居者同士の関係性をみながら配慮している。時には気の合った仲間同士でレクに参加して交流を深めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	賞状や記念品、仏壇、家具などご本人のなじみの物が置かれている。またタンスや壁にはご家族の写真が飾られて落ち着いて生活できるよう工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やトイレの場所の表示は目線の高さに合わせ視界に入るようにしている。また混乱するものはできる限り動線に置かないようにして必要な部分のみサポートする事を心掛けている。		